

勇氣ある指名

10月27日に行われたプロ野球ドラフト会議の会場が、一瞬どよめきました。

東海大学の菅野智之投手を、日本ハムが一位指名した時の事です。

結局、菅野投手を一位指名したのは巨人と日本ハムの2チームで、抽選の結果日本ハムが交渉権を引き当てたという事が、大きなニュースになりました。昨年は斉藤投手を引き当てていますので、日本ハムの強運は驚くべきものです。

菅野投手は、巨人軍の原監督の甥に当り巨人軍とは相思相愛の間柄といわれていましたから、他チームはそうしたことに配慮し、巨人軍以外は指名しないだろうと思われていました。暗黙の了解というのでしょうか、巨人軍以外のチームが自己規制する、そんな雰囲気が出ていたような気がします。

日本ハムは、こうしたことに一石を投じた形になりました。結論からいえば、身びいきでいう分けではありませんが、日本ハムは良くやったと思います。

ダルビッシュ投手が大リーグを目指しているといわれている中、日本ハムとしては、どうしても力のある投手を確保しておく必要がある以上、大学球界屈指の右腕に目をつけるのは当然の事といえます。

恐らく、他チームの中にも食指を動かしたところはあるはずですが、にもかかわらず、菅野投手と巨人軍との関係を慮ってどこも指名しないとしたらどうなったでしょう。菅野投手は泣いて喜んだに違いありませんが、それは同時に、ドラフト制度を形骸化させ、ファンの失望をかったことでしょう。

プロ野球のドラフト制度については、以前から、選手の自由を尊重すべきであるとか、プロ野球の発展のためには必要であるなど、様々な議論がありました。また、ドラフトを巡って、荒川事件や江川事件など様々なことが起こっています。

そもそもドラフト制度は、新人選手の獲得費用を抑制することや、有力選手が特定のチームに偏らず各チームの力が拮抗するように、といった目的の下に

導入されたものです。従って、人それぞれに言い分はあるでしょうが、少なくともプロ野球の選手になろうとする者は、ドラフト制度がある以上、この制度の趣旨を十分理解しておくべきですし、何よりも、プロ野球全体の発展に貢献していくという気構えが必要です。

私は、マー君こと田中投手が楽天に指名された時のあの清々しい態度が、今も忘れられません。彼にとっては、どのチームに入るかより、プロ野球の選手になる事の方に大きな価値を置いていたのではないのでしょうか。

彼の行動からは、プロ野球の世界で生き抜くという覚悟が伝わってきましたし、その覚悟が、今やパ・リーグのみならず日本のプロ野球界を代表する投手に成長させたといえるでしょう。

菅野投手にとってはさぞかし不本意な状況に違いないと思いますが、彼は今、プロとして生きる覚悟が試されているのだ、ということを実感すべきです。そして同時に、日本ハムファンの一人として、是非、日本ハムの選手として北海道に来て欲しいと願っていることも、付け加えたいと思います。

(塾頭 吉田 洋一)